

1 施策の重点化

限られた資源で効率的・効果的に強靱化を進めるには、施策の優先順位付けを行い、優先順位の高いものについて重点化しながら進める必要があります。

本計画に位置付ける個別の施策について、市の役割の大きさ、市で想定される災害の特性を踏まえた影響の大きさと緊急度、国・県との調和等の観点から勘案し、起きてはならない最悪の事態（リスクシナリオ）単位で、重点化して取り組む施策を設定しました。

事前に備えるべき目標	No.	起きてはならない最悪の事態（リスクシナリオ）
1 直接死を最大限防ぐ	1-1	地震等による建築物等の倒壊による多数の死傷者の発生
	1-2	火災による多数の死傷者の発生
	1-3	台風や豪雨等により、広域かつ長期的な氾濫・浸水をもたらすことによる多数の死傷者の発生
2 救助・救急、医療活動等が迅速に行われるとともに、被災者等の健康・避難生活環境を確実に確保する	2-1	被災地での食料・飲料水・電力・燃料等、生命に関わる物資・エネルギー供給の停止
	2-2	消防の被災等による救助・救急活動等の絶対的不足
	2-5	劣悪な避難生活環境、不十分な健康管理による多数の被災者の健康状態の悪化・死者の発生
3 必要不可欠な行政機能は確保する	3-1	市職員・施設等の被災による行政機能の大幅な低下
4 必要不可欠な情報伝達機能は確保する	4-1	被災により、災害情報が伝達できない事態
7 制御不能な複合災害・二次災害を発生させない	7-1	地震に伴う市街地での火災の発生

2 KPI（重要業績指標）の設定

KPI (Key Performance Indicator) (重要業績指標) を設定し、計画の進捗管理を行います。KPI (重要業績指標) は、基本計画、県地域計画を踏まえ、概ね5年間（令和2（2020）年度～令和6（2024）年度）を目途に、次の項目を設定しました。

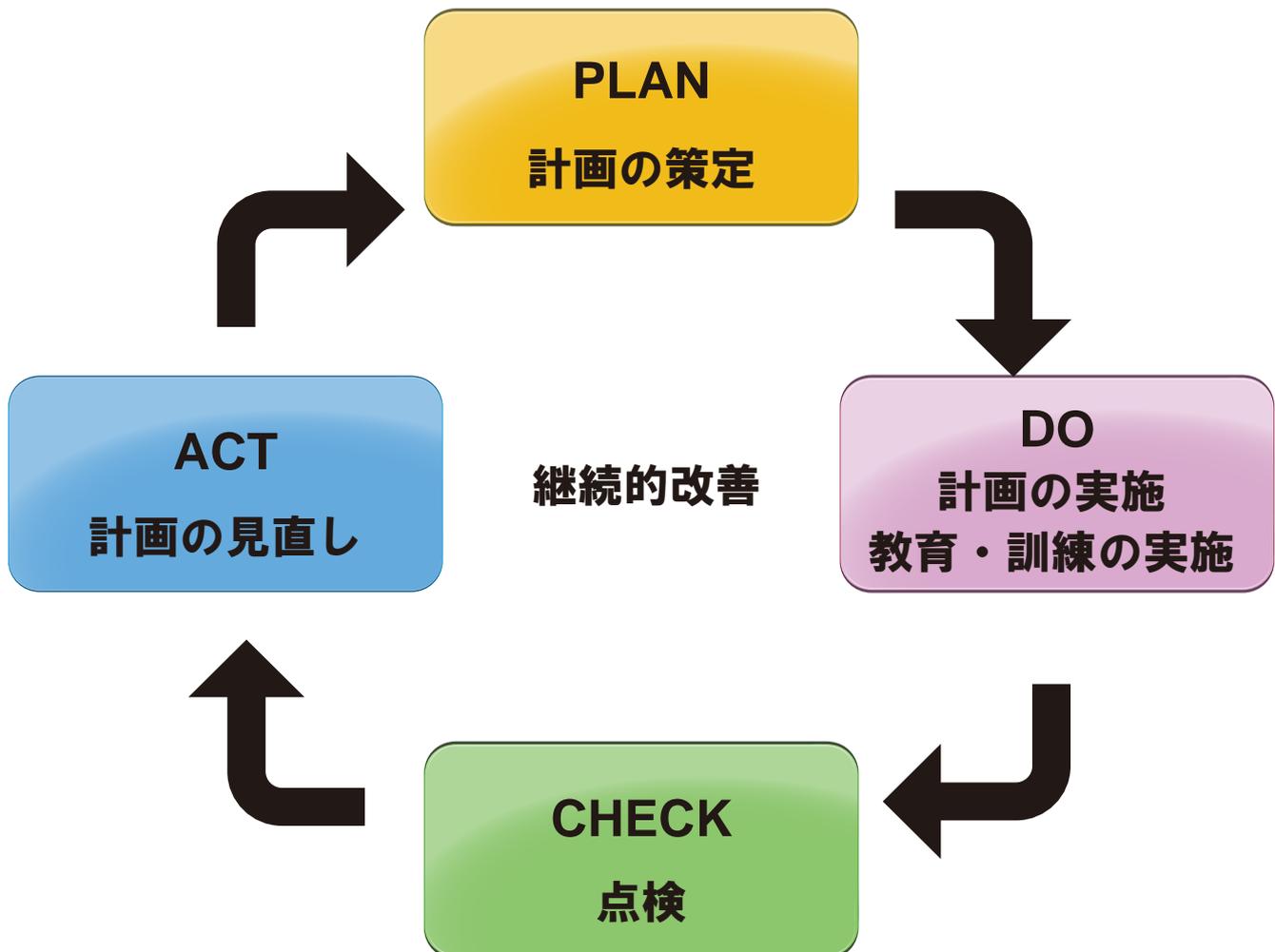
1 直接死を最大限防ぐ					
	現状値	年度	目標値	年度	担当課
住宅の耐震化率	82.1%	2016	▶ 95%	2020	建築課
多数の者が利用する建築物の耐震化率	88.2%	2016	▶ 95%	2020	建築課
自主防災組織の組織率	90.9%	2018	▶ 100%	2024	安全安心課
土地区画整理完了率	54.2%	2016	▶ 62.8%	2027	区画整理課
住宅用火災警報器の設置率	49.5%	2019	▶ 82.3%	2024	館林地区消防組合
河川整備計画に基づく河川整備延長	7.187 km	2018	▶ 8.078 km	2022	道路河川課
2 救助・救急、医療活動等が迅速に行われるとともに、被災者等の健康・避難生活環境を確実に確保する					
	現状値	年度	目標値	年度	担当課
小中学校への防災倉庫の設置	80.0%	2018	▶ 100%	2021	安全安心課
予防接種法に基づく予防接種 (麻しん・風しんワクチンの接種率)	96.9% (第1期) 95.6% (第2期)	2018	▶ 95.0%以上 (第1期) 95.0%以上 (第2期)	毎年	健康推進課
受援・応援計画の策定	未策定	2018	▶ 策定	2020	安全安心課
3 必要不可欠な行政機能は確保する					
	現状値	年度	目標値	年度	担当課
業務継続計画(BCP)の策定	未策定	2018	▶ 策定	2020	安全安心課
【再掲】受援・応援計画の策定	未策定	2018	▶ 策定	2020	安全安心課

4 必要不可欠な情報伝達機能は確保する					
	現状値	年度	目標値	年度	担当課
新たな情報伝達手段の導入	検討	2018	▶ 導入	2021	安全安心課
5 経済活動を機能不全に陥らせない					
	現状値	年度	目標値	年度	担当課
再生可能エネルギー導入量	159千kWh/年	2018	▶ 175千kWh/年	2023	地球環境課
6 生活・経済活動に必要な最低限の電気、ガス、上下水道、燃料、交通ネットワーク等を確保するとともに、これらの早期復旧を図る					
	現状値	年度	目標値	年度	担当課
下水道水洗化率	88.9%	2018	▶ 90.1%	2024	下水道課
7 制御不能な複合災害・二次災害を発生させない					
	現状値	年度	目標値	年度	担当課
【再掲】住宅用火災警報器の設置率	49.5%	2019	▶ 82.3%	2024	館林地区消防組合
空間放射線量の測定	年4回・14地点	2018	▶ 年2回・14地点 月1回・50地点	平常時 災害時	地球環境課
基盤整備率（水田・畑）	23.0%	2017	▶ 31.0%	2027	農業振興課
多面的機能の維持・発揮が 図られた農業集落数	19	2019	▶ 20	2024	農業振興課
8 地域社会・経済が迅速かつ従前より強靱な姿で再建・回復できる条件を整備する					
	現状値	年度	目標値	年度	担当課
職員の被災宅地危険度 判定士登録者数	35名	2018	▶ 維持	2024	都市計画課
職員の被災建築物応急 危険度判定士登録者数	13名	2019	▶ 維持	2024	建築課
文化施設における年間利用者数	204,994	2017	▶ 200,000	2020	文化振興課
地籍調査の進捗率	16.2%	2018	▶ 24.0%	2028	農業振興課

3 施策の推進及び進捗管理

本計画の実効性を確保するために、本計画の推進方針に基づく各種施策について、本市の分野別計画等と連携しながら、計画的に推進します。

また、計画の推進に当たっては、毎年度PDCAサイクルにより、設定したKPI（重要業績指標）や各取組の進捗状況を踏まえながら検証を行い、必要に応じて計画の見直しを図っていきます。



ハザードマップ（市域で想定される災害）

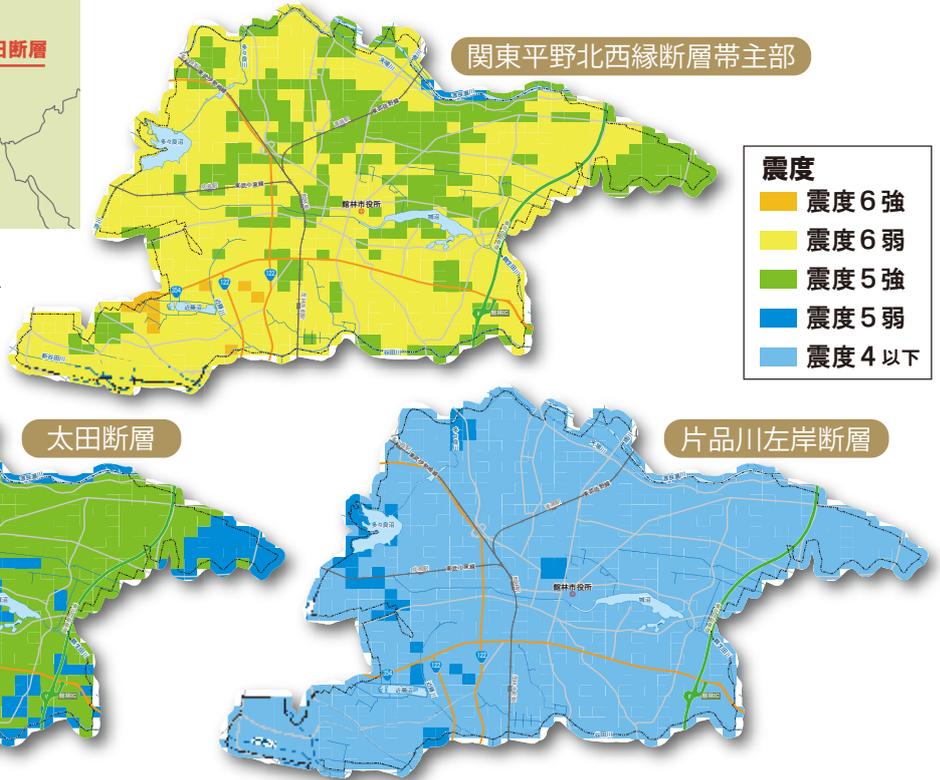
震度分布 県内の3つの活断層で地震が発生した場合



この地図は群馬県地震被害想定調査（平成24年度）を基に作成したものです。以下の3つの断層（帯）により被害想定を行っています。

- 関東平野北西縁断層帯主部による地震（M8.1）
- 太田断層による地震（M7.1）
- 片品川左岸断層による地震（M7.0）

東日本大震災の際、遠くの断層で発生した地震の揺れが、館林市内にも影響を及ぼしたように、これ以外の断層の地震でも大きく揺れることがあります。



震度階級ごとの揺れによる被害

震度 7

・耐震性の低い建物は、傾くものや倒れるものが増える。



震度 6強

・はわないと動くことができない、飛ばされることもある。
・大きな地割れが生じたり、大規模な地滑りや山林の崩壊が発生することがある。



震度 6弱

・立っていることが困難になる。
・壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。



震度 5強

・物につかまらなさと歩くことが難しい。
・固定していない家具が倒れることがある。
・補強されていないブロック塀が崩れることがある。



震度 5弱

・大半の人が、恐怖を覚え、ものにつかまらなさと感じる。
・棚にある食器類や本が落ちることがある。



震度とマグニチュードの違い

震度 揺れの大きさ

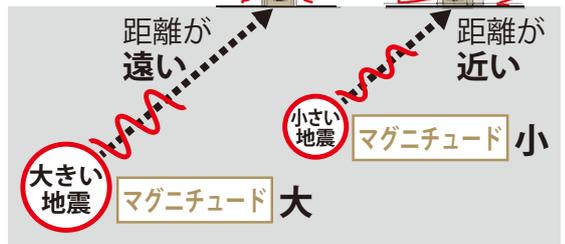
マグニチュード 地震そのものの大きさ（規模）

震度 小

震度 大

小さな揺れ

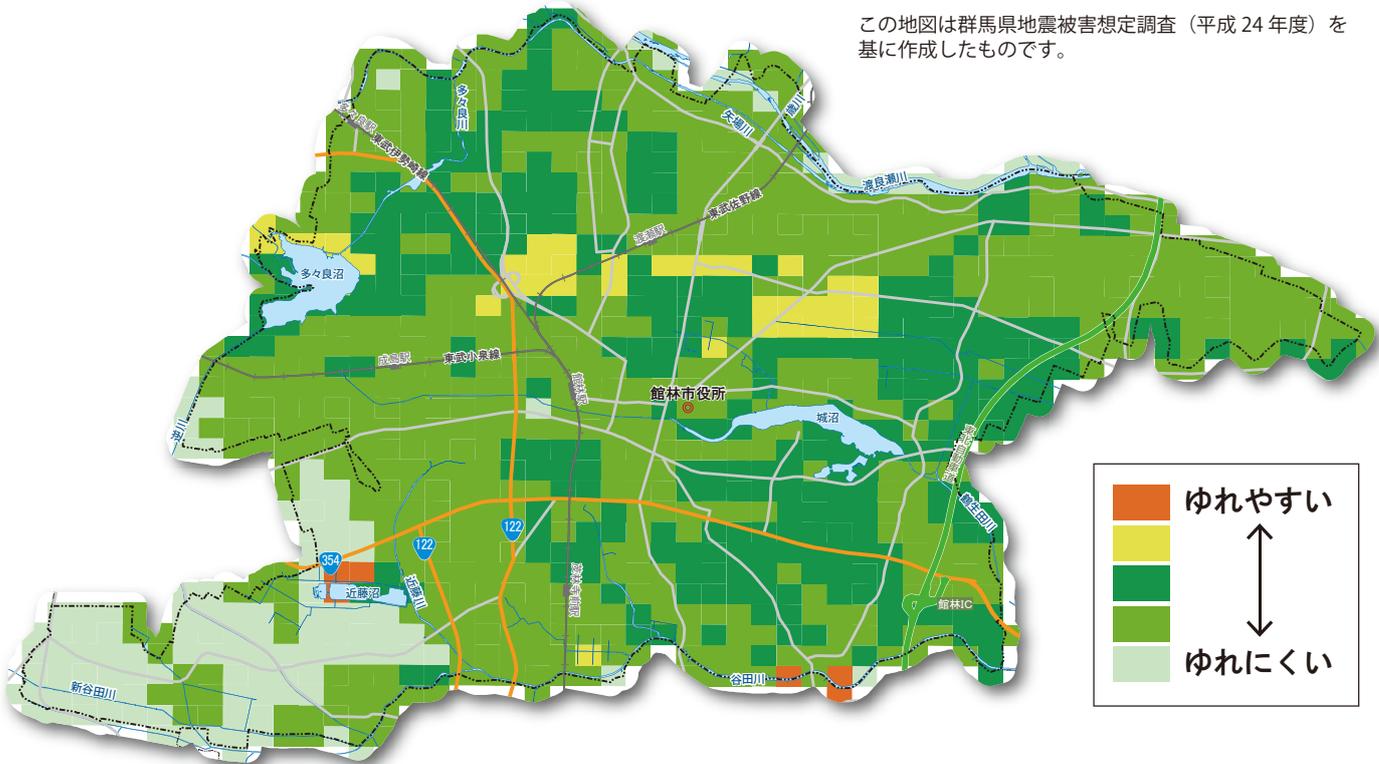
大きな揺れ



地震の波が地中を伝わり地面が揺れるため、距離が遠ければ、大きな地震でも揺れは小さくなります。

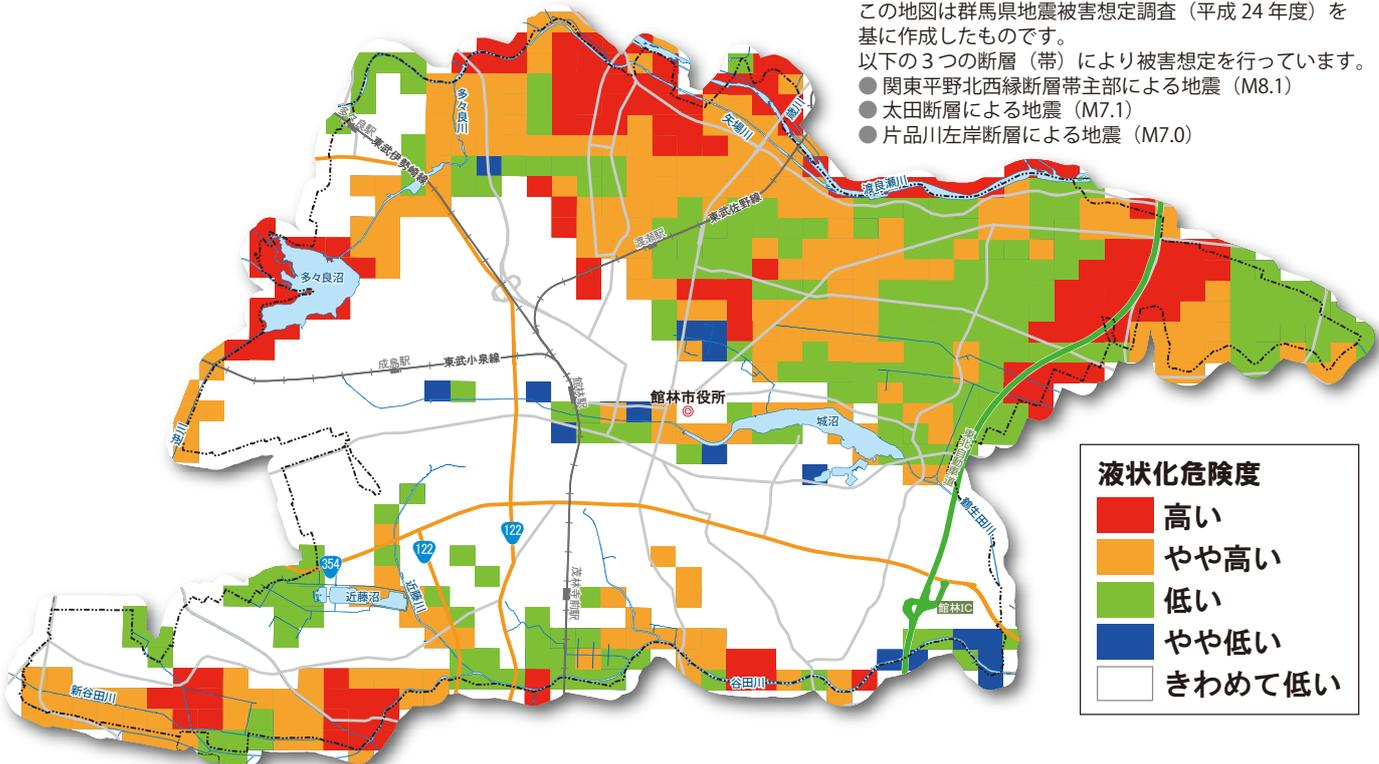
地震のゆれやすさ 館林市役所直下で地震が発生した場合

この地図は群馬県地震被害想定調査（平成 24 年度）を基に作成したものです。



液状化危険度 県内の3つの活断層で地震が発生した場合

この地図は群馬県地震被害想定調査（平成 24 年度）を基に作成したものです。
以下の3つの断層（帯）により被害想定を行っています。
● 関東平野北西縁断層帯主部による地震（M8.1）
● 太田断層による地震（M7.1）
● 片品川左岸断層による地震（M7.0）



水害ハザードマップ（浸水想定区域図）

浸水の深さ（最大浸水深）

3・4階	5m～10m未満 (3階床上浸水～4階軒下浸水)
2階	3m～5m未満 (2階床上～軒下浸水)
1階	0.5m～3m未満 (1階床上～軒下浸水)
1階床下	0.5m未満 (1階床下浸水)

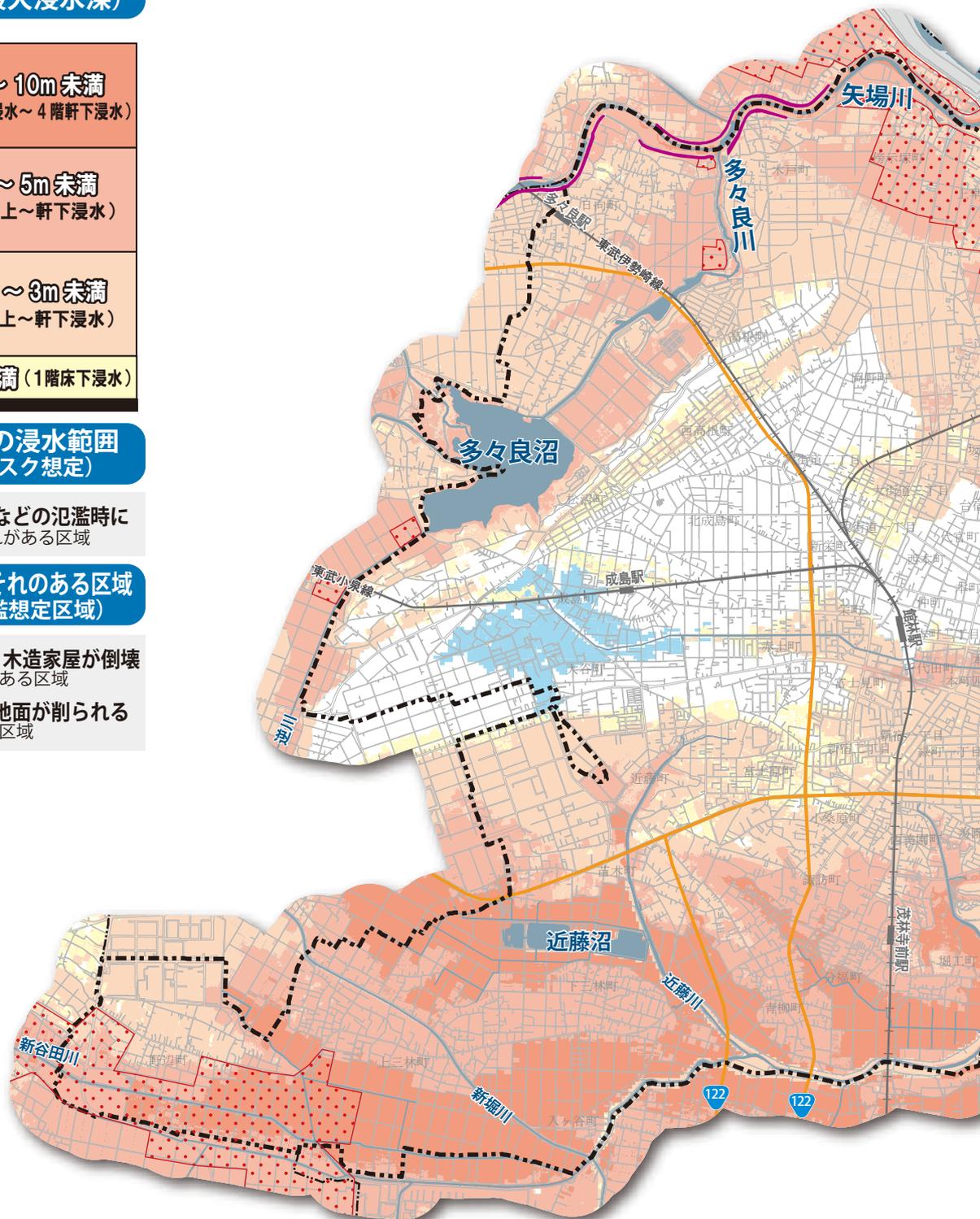
その他の河川の浸水範囲 (群馬県水害リスク想定)

小さな河川などの氾濫時に浸水のおそれがある区域

家屋が倒壊するおそれのある区域
(家屋倒壊等氾濫想定区域)

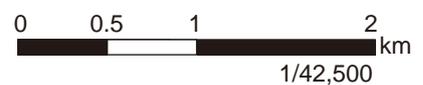
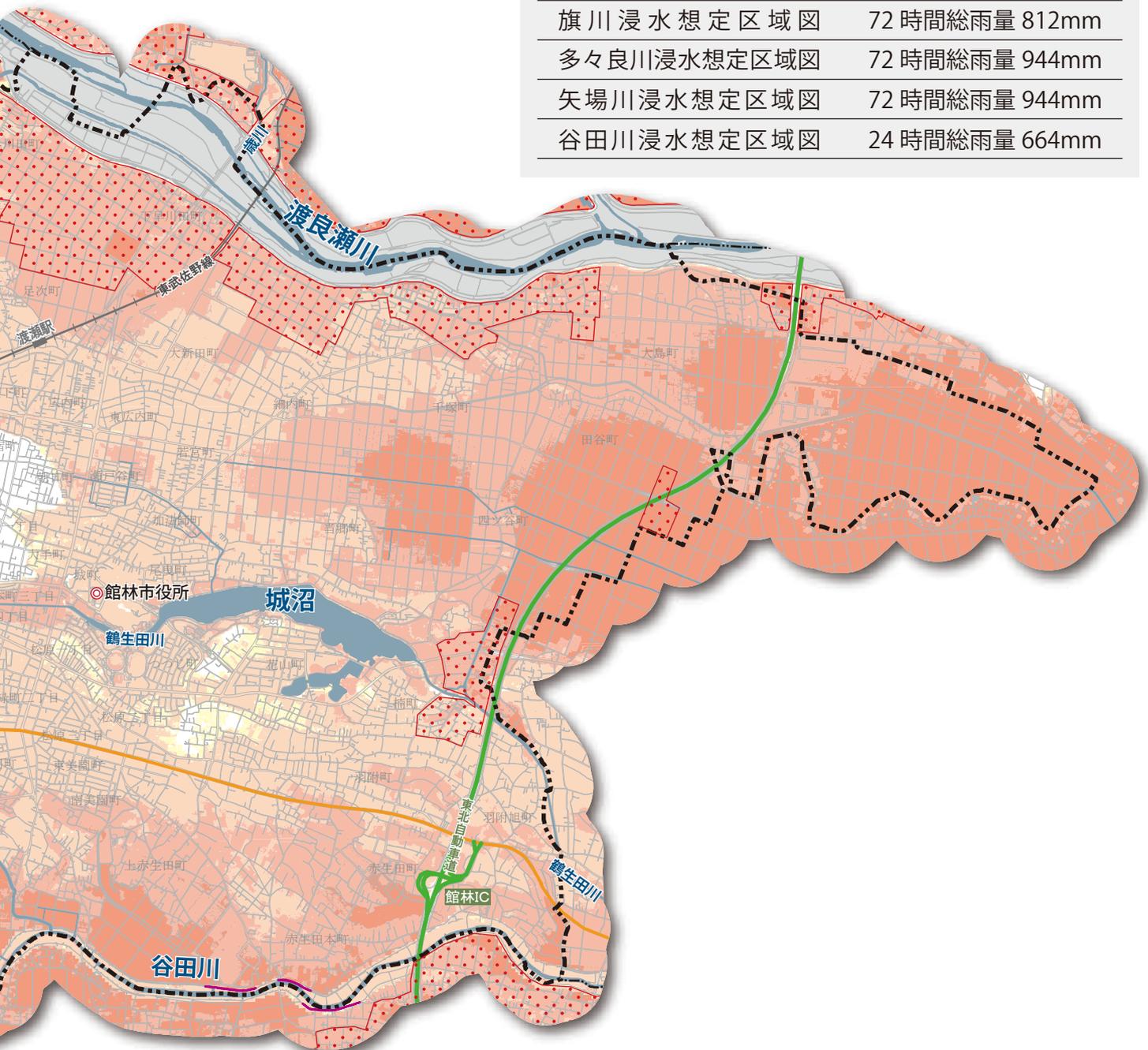
流速が早く、木造家屋が倒壊するおそれがある区域

洪水の際に地面が削られるおそれがある区域



このマップに使用した洪水浸水想定区域は、以下の想定最大規模の浸水想定区域を重ね合わせたものです。

浸水想定区域図	降雨条件(想定最大規模)
利根川浸水想定区域図	72時間総雨量 491mm
渡良瀬川浸水想定区域図	72時間総雨量 812mm
秋山川浸水想定区域図	72時間総雨量 812mm
旗川浸水想定区域図	72時間総雨量 812mm
多々良川浸水想定区域図	72時間総雨量 944mm
矢場川浸水想定区域図	72時間総雨量 944mm
谷田川浸水想定区域図	24時間総雨量 664mm



過去の主な災害履歴

【過去の地震】

発生年月日	名称・概要	人的被害・物的被害（全国）
2011.3.11 (平成 23)	東北地方太平洋沖地震 (東日本大震災) マグニチュード 9.0 ※館林市では震度 5 弱を観測。	死者 19,689 名、行方不明者 2,563 名、負傷者 6,233 名 住家全壊 121,995 棟、住家半壊 282,939 棟 住家一部破損 748,109 棟など ※館林市では死者 1 名、軽傷 1 名、住家一部損壊 990 棟

気象庁 HP 「日本付近で発生した主な被害地震」より

【過去の風水害】

発生年月日	名称・概要	人的被害・物的被害（全国）
1947.9.14~15 (昭和 22)	カスリーン台風 利根川・荒川決壊で東京など 関東平野が水浸し。	死者 1,077 名、行方不明者 853 名、負傷者 1,547 名 住家損壊 9,298 棟、浸水 384,743 棟など
1948.9.15~17 (昭和 23)	アイオン台風 岩手県で甚大な被害。	死者 512 名、行方不明者 326 名、負傷者 1,956 名 住家全壊 5,889 棟、半壊 12,127 棟 床上浸水 44,867 棟、床下浸水 75,168 棟など
1949.8.31~9.1 (昭和 24)	キティ台風 関東地方に大きな被害。	死者 135 名、行方不明者 25 名、負傷者 479 名 住家全壊 3,733 棟、半壊 13,470 棟 床上浸水 51,899 棟、床下浸水 92,161 棟など
1966.9.23~25 (昭和 41)	台風第 24 号、26 号 ※館林市に影響があったのは 台風第 26 号。	死者 238 名、行方不明者 79 名、負傷者 824 名 住家全壊 2,422 棟、半壊 8,431 棟 床上浸水 8,834 棟、床下浸水 42,792 棟など
2007.9.5~9 (平成 19)	台風第 9 号 東海から北海道にかけて 大雨、暴風。	死者 1 名、行方不明者 2 名、負傷者 90 名 住家全壊 11 棟、半壊 60 棟、一部損壊 830 棟、 床上浸水 411 棟、床下浸水 1,309 棟など

気象庁 HP 「災害をもたらした気象事例」より

【過去の竜巻】

発生年月日	概要	人的被害・物的被害（市内）
2009.7.27 (平成 21)	市内南西部から北東部に かけて突風が発生	負傷者 19 名（軽傷） 住家全壊 15 棟、住家半壊 31 棟、住家一部損壊 659 棟、 車両破損 105 台

「館林市地域防災計画」より

大地震の周期性・連続性

プレート型の地震は、周期的に発生しています。また、ある地震活動が別の地震や火山活動にどのように影響を及ぼすかは明らかではありませんが、過去には連続して地震が発生した事例があります。



発生年と規模等は、地震調査研究推進本部（「日本の地震活動」、「地震がわかる！」、ホームページ）より記載

市民・事業者と共に進める館林市強靱化計画

2020年3月発行

発行 館林市

総務部安全安心課 | 〒374-8501 群馬県館林市城町1番1号
TEL 0276-72-4111 (代) FAX 0276-72-3297
Email anzen@city.tatebayashi.gunma.jp

市民・事業者と共に進める館林市強靱化計画

